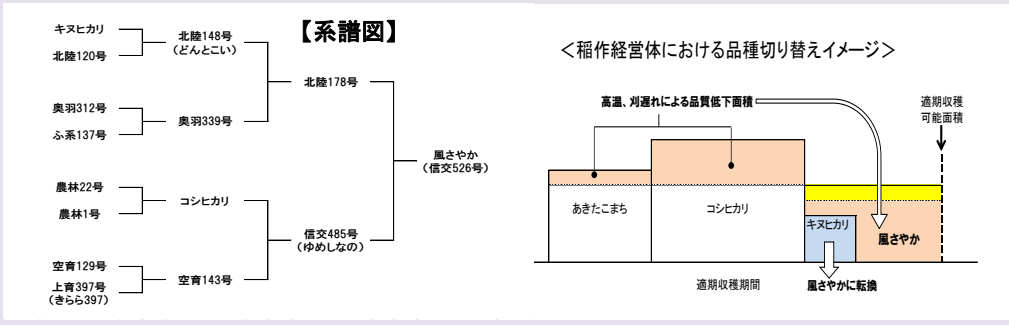


【全体概要】

水稻栽培品種が「コシヒカリ」に偏重している中、近年では登熟期間の高温による胴割粒等の発生により、1等米比率の低下が課題となっている。このため、高温登熟障害を回避する良食味品種の普及が望まれており、主力品種と収穫適期が重複しない晩生品種として「風さやか」を推進する。

新品種・新技術等の概要

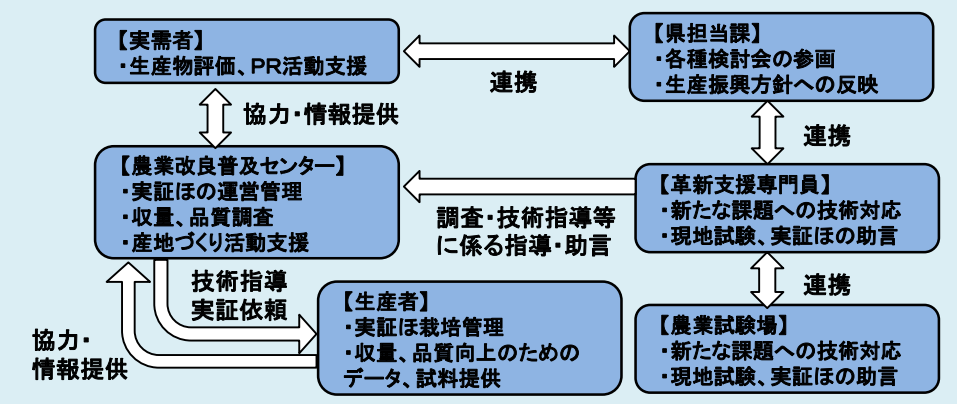
- 「風さやか」は「キヌヒカリ」に比べ以下の特徴がある。
- ア 出穂期で3日、成熟期で4日程度遅く、高温時の登熟を回避しやすい。
- イ 「キヌヒカリ」と比べ倒れにくい。
- ウ 「キヌヒカリ」対比108の玄米収量が得られる。
- エ 「キヌヒカリ」と比較して、いもち病に強い。
- オ 炊飯米の食味は「キヌヒカリ」より優り、「コシヒカリ」に近い良食味である。



主な取組内容

- ・現地実証ほの設置  
県下の主要推進地域4カ所に、栽培モデルとなる実証ほを設置。
- ・推進会議の開催  
コンソーシアム候補による推進体制、生産・品質向上等の検討。
- ・品質・食味分析の実施と評価のフィードバック  
60サンプルの品質・食味を分析。産地、生産者間の品質差を検証。
- ・栽培技術検討会の開催  
食味向上のための施肥体系、適期収穫判定等について検討。

コンソーシアム候補の体制図



課題と今後の対応

- (1) 生産関係  
課題：県内産地における品質の平準化と、食味及び品質を高いレベルで一定に保ち、安定的に生産供給する必要がある。  
対策：県内全域を対象とした食味分析と技術指導及び栽培パンフレットによる施肥、適期収穫の推進等による高品質化の推進。

- (2) 流通販売関係  
課題：面積拡大に伴い、県産良食味米としての認知度向上が必要。  
対策：関係者が一体となり、同一のコンセプトによる消費者等への認知度向上に努める。

